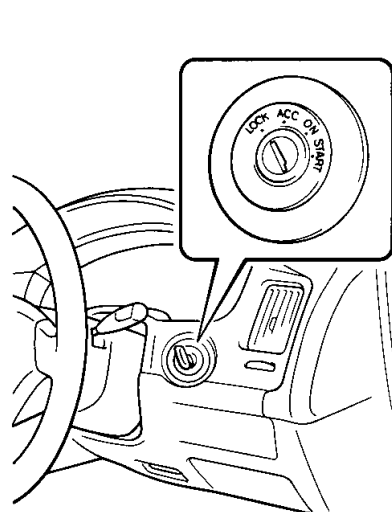


エンジンスイッチ	42
エンジンのかけ方	43
パーキング(駐車)ブレーキ	43
ホーン	43
マニュアルトランスミッション	44
オートマチックトランスミッション	45
ABS	48
SRSエアバッグ	49

エンジンスイッチ

各位置の働き



LOCK
(ロック)

キーを抜き差しできる位置。
キーを抜くとハンドルがロックされます。

ACC
(アクセサリ)

エンジン停止時、次のものが使用できます。
オーディオ、シガレットライター、電動リモコンミラー

ON
(オン)

エンジン回転中の位置。

START
(スタート)

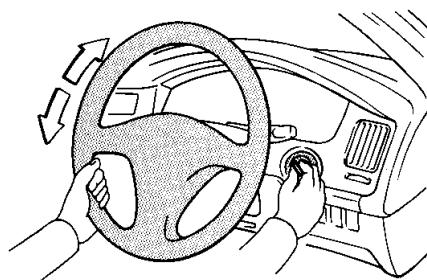
エンジンを始動する位置。



知 識

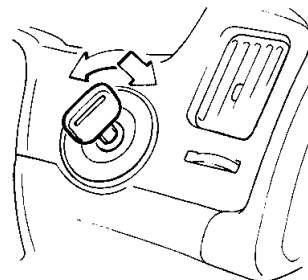
エンジン停止時はエンジンスイッチをONまたはACCのまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

LOCKからACCに回すとき



キーが回りにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

ACCからLOCKに回すとき

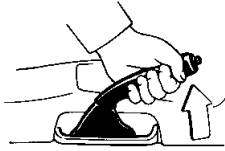


キーを押しながら回します。
オートマチック車は、チェンジレバーがPの位置にないと回せません。

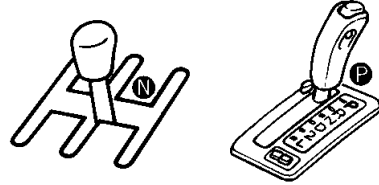
エンジンのかけ方

エンジンをかける前に

① パーキング(駐車)ブレーキをかけます。



② チェンジレバーを、マニュアル車はN、オートマチック車はPにします。



エンジンのかけ方



注意

窓越しなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず運転席にすわって行ってください。

② エンジンスイッチをスタート位置に回しエンジンを始動します。
アクセルペダルを踏まずに行います。

③ エンジンがかかったら、しばらく暖機運転をします。
暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。

① 運転席にすわりブレーキペダルをしっかりと踏みます。

運転装置の使い方

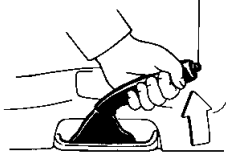
パーキング(駐車)ブレーキ



注意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

解除ボタン




駐車するときは

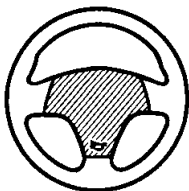
ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。

解除するときは

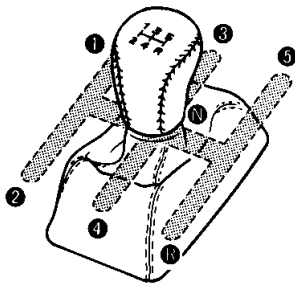
レバーを少し引き上げながらボタンを押さえて、もどします。

ホーン

 周辺部を押します。



マニュアルトランスミッション



⑤に入れるときは

⑤→④へは直接入れることができません。いったん③にしてから④へ入れます。

駐車するときは

パーキング(駐車)ブレーキをかけ、チェンジレバーを①(1速)または④(後退)の位置にします。



アドバイス

車両が動いているときは④にいれないでください。車が完全に止まってから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。

(単位: km/h)

シフト位置	エンジン型式	
	3S-GTE	3S-GE
1速	45	55
2速	80	90
3速	120	140
4速	160	180

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が右表の数値をこえないようにしてください。

運転装置の使い方

オートマチックトランスミッション(シフトロックシステム付)

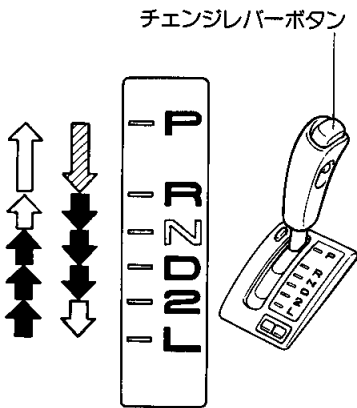
(14ページの「オートマチック車の正しい運転のしかた」もあわせてお読みください。)

名称と働き

P パーキング	駐車およびエンジン始動 車輪が固定されます。駐車の際は必ず①にしてください。 ②でのみエンジンスイッチからキーが抜けます。
R リバース	後退 ブザーが鳴り③にあることを運転者に知らせます。
N ニュートラル	動力が伝わらない状態 ④でもエンジンは始動できますが、安全のため⑤で行ってください。
D ドライブ	通常走行 スピードに応じてギヤが自動的に切り替わります。
2 セカンド	下り坂走行 エンジンブレーキが必要なときに使います。
L ロー	急な下り坂走行 強力なエンジンブレーキが必要なときに使います。

運転装置の使い方

チェンジレバーの動かし方



➡ は、チェンジレバーボタンを押さずに操作します。

➡ は、チェンジレバーボタンを押して操作します。

➡ は、ブレーキペダルを踏んだまま、チェンジレバーボタンを押して操作します。



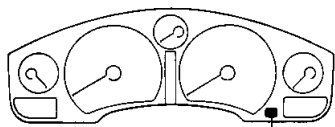
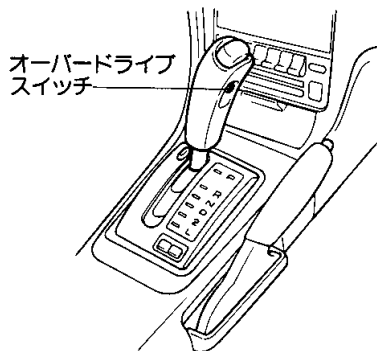
➡の操作はレバーボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反して①、②または③にいれてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●エンジンスイッチがACCまたはLOCKのときにブレーキペダルを踏んでも④からレバー操作できません。

●①からレバー操作するとき、チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

オーバードライブ(O/D)スイッチ



スイッチを押すごとにONとOFFに切り替わります。

通常走行

スイッチをONにします。

●の位置で走行中、一定速度以上で4速ギヤにはいり、燃費性能と静粛性を高めます。

坂道走行

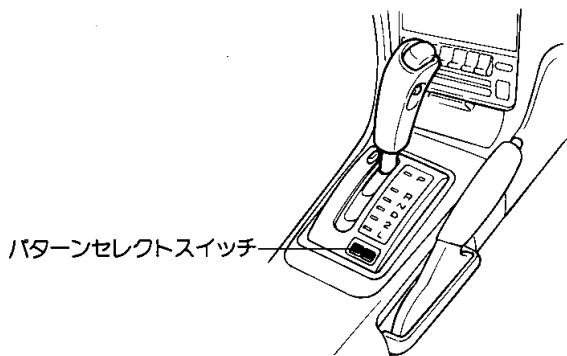
スイッチをOFFにします。

- 下り坂では軽いエンジブレキが得られます。
- 上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

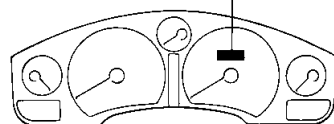
	スイッチの状態	表示灯
ON		O/D OFF (消灯)
OFF		O/D OFF (点灯)

ECT-Sパターンセレクトスイッチ

走行・使用条件にあわせて、走行パターンを選択できます。



ECT-S/パターン表示灯



走行パターン	エコノミー	パワー	マニュアル
スイッチの状態			
パターン表示灯			
特長	<ul style="list-style-type: none"> ●燃費のよい経済的な走行に適します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワフルな運転や山間地での運転などに適します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●②の位置にすると2速に固定され、雪道などすべりやすい路面での発進に適します。 ●①で発進し、②、①へと手動の操作で運転するのに適します。 ●市街地を①で走行中、ギヤの切り替わりが気になるときは、このパターンにするとギヤの切り替わる回数が少なくなります。

同一スイッチを再度押すと設定パターンは解除され、エコノミーパターンになります。

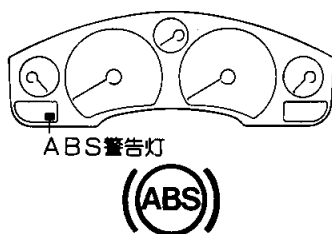


走行中（オーバードライブスイッチがONのとき）オーバードライブOFF表示灯が点滅したときは装置の異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ABS*1

ABSは、急制動やすべりやすい路面での制動時における車輪のロックを自動的に防止することにより、車両の方向安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

■ABS警告灯



- エンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯すれば正常です。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。



アドバイス

警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
 - 走行中に点灯したとき
- なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ正常です。



知識

ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動やすべりやすい路面での制動時には車輪がロックすることがあります。



注意

- ABSを過信しないでください。
ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 次の場合などには、とくに速度をひかえめにして車間距離を十分とってください。ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることもあり、事故につながるおそれがあります。
 - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤチェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凸凹道や石だみなどの悪路を走行しているとき



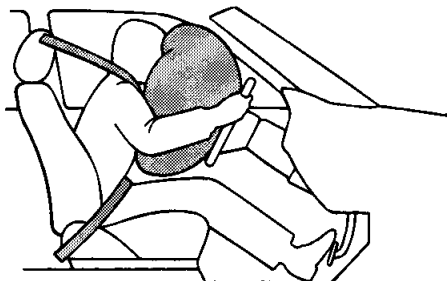
知識

- ブレーキペダルを踏んだとき、作動音とともにペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。さらにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ*2はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
*2 ブレーキペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけ方
- エンジン始動時や始動後の発進直後および走行中にフロントトランクからモーター音が聞こえることがあります。これはシステムの作動チェックおよび正常に作動しているときの音で異常ではありません。
- ABSは、発進後車速が約10km/hになるまで作動しません。また、車速が約5km/hまで下がると作動をやめます。

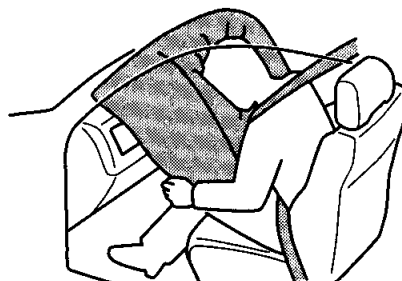
*1 ABSはAntilock Brake System(アンチロック・ブレーキ・システム)の略

SRS*エアバッグ

運転席SRSエアバッグ



助手席SRSエアバッグ



運転席SRSエアバッグ、助手席SRSエアバッグは運転者または乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

シートベルトは必ず着用してください。(37ページ参照)

* SRSはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員保護補助装置の意味

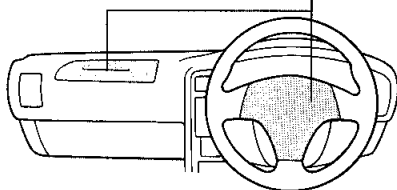
運転装置の使い方



注意

- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

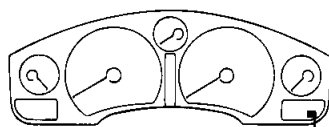
パッド部



アドバイス

SRSエアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

■SRSエアバッグ警告灯



警告灯



エンジンスイッチをONまたはACCにすると点灯し、数秒後に消灯すれば正常です。



注意

警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

- エンジンスイッチをONまたはACCにしても点灯しないとき。または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。



●SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには必ず次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。

シートベルトの正しい着用については37ページをご覧ください。

●シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートにすわってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者の方は》

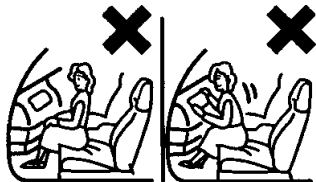
運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにしてすわってください。

《助手席乗員の方は》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方にすわってください。

シート前端にすわったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい姿勢については33ページをご覧ください。



●ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

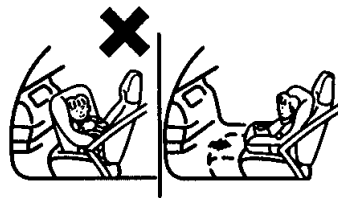
●お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシート、などの子供専用シートを装着してご使用ください。

●助手席にはベビーシートなど後ろ向き装着の子供専用シートは絶対に取りつけないでください。

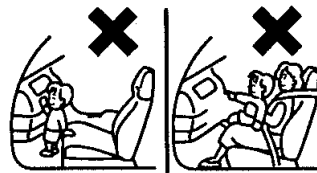
また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでも後ろ向きには絶対に取りつけないでください。

助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。



また、助手席に前向き装着の子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばん後ろにして取りつけてください。

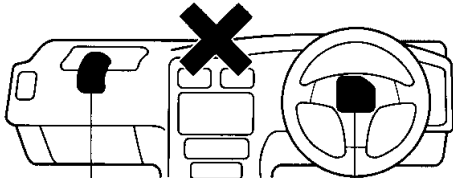
●お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上にだいたりした状態では走行しないでください。





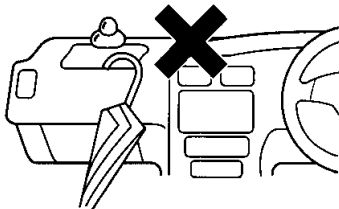
●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。



ステッカー

- インストルメントパネル上部に芳香剤などを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



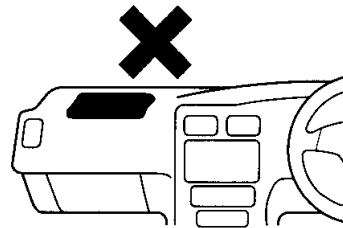
- 無線機の電波などが、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときはトヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わりSRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●SRSエアバッグがふくらんだ直後はSRSエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品は大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 車両の整備作業の場合には必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

これらの作業が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし、取り付け、分解修理などをしないでください。

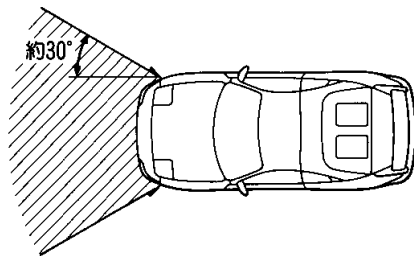


- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。



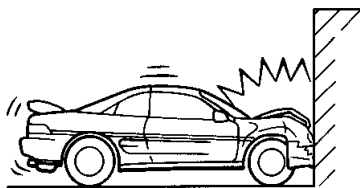
知識

- 衝突により車両前部が大きく変形しても、衝撃吸収ボデー構造*により乗員への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷とSRSエアバッグの作動とは必ずしも一致しません。
*衝撃吸収ボデー構造は、衝突時の衝撃をボデーの前部を変形させることにより吸収します。
- SRSエアバッグは強い前面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上体が受ける重大な傷害を軽減する装置です。したがってシートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRSエアバッグは作動しにくくなっています。
- SRSエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な障害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

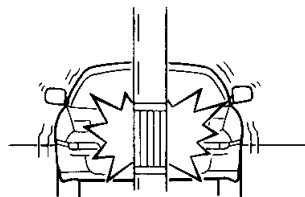


例えば、次のようなボデーが受ける衝撃が弱い場合には、SRSエアバッグは作動しない場合があります。

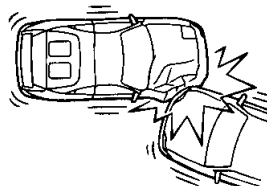
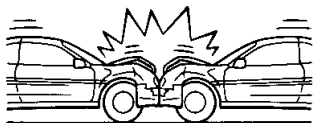
- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのよ
うな固い壁に正面衝突したときであっても衝
突速度が約20km/h以下の場合



- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの
狭い範囲に正面衝突したときであっても衝突
速度が約30km/h以下の場合

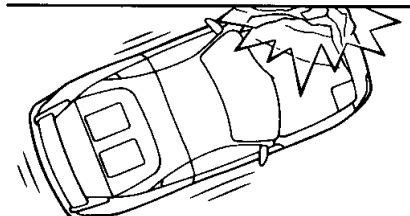
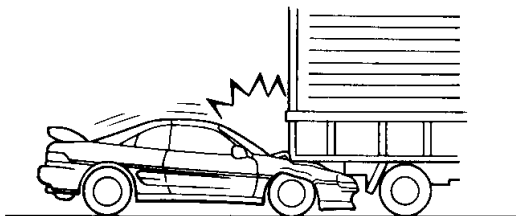


- 衝突したものが変形したり、移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、SRSエアバッグの作動する車速は高くなります。
- 例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面か
ら衝突した場合には、約50km/h程度の速度で
あってもSRSエアバッグは作動しないこと
があります。
- 衝突の方向(角度)や片側衝突など(オフセッ
ト衝突)によっては、さらに高い速度であ
ってもSRSエアバッグは作動しないことがあ
ります。

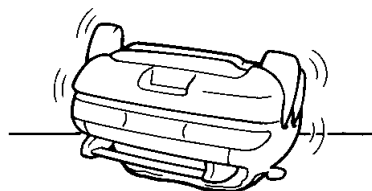
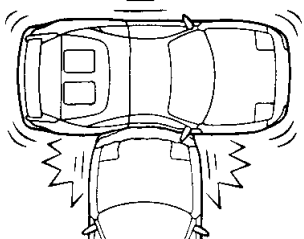




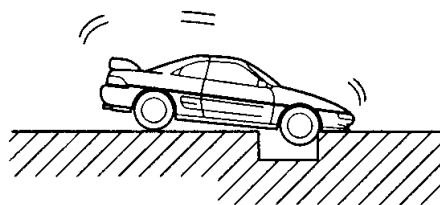
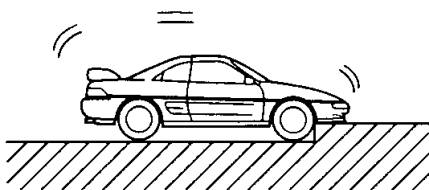
- 次のような場合も衝突による衝撃が緩められるため、SRSエアバッグが作動しないことがあります。
 - トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突したとき
 - 前方の斜めの方向から衝撃を受けたとき



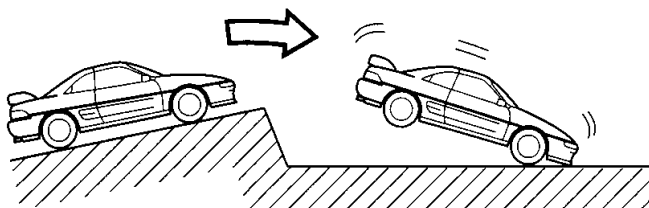
- 次のような場合はSRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。
 - 側面や後方から衝撃を受けたとき
 - 車両が横転、転覆したとき



- 次のような、車両下部に強い衝撃を受けた場合には、SRSエアバッグが作動することがあります。
 - 縁石などにぶつかったとき
 - 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき



- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また人体への影響もありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどですと、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウィンドウガラスが破損することがあります。